

平成28年9月  
第38号

発行責任者  
首都圏段戸会  
会長 野村親信  
編集発行人  
広報担当 村木央明

# 会長挨拶

首都圏段戸会会長

野村 親信 (高16回)

本年は四年に一度のオリンピッククイヤーであり、間もなくリオデジャネイロオリンピックが開催されます。この会報が発行される頃には終わっていることになりませんが、色々な問題を抱えながらの開催です。何とか無事に終わることを祈っています。



そして、四年後の二〇二〇年七月二十四日には、東京オリンピックが五十六年振りに開催されます。

思い起こせば、私達高十六回生が岡崎高校を卒業した一九六四年(昭和三十九年)十月十日に開催された東京オリンピックや、その年の十月の東海道新幹線の開業を契機に、我が国経済は急速に拡大しました。そして、その後五年近くも続いたいざなぎ景気の間、世界第二位の経済大国となり、再び国際社会の中心に復帰することになったのです。

二〇二〇年の東京オリンピックに同様の経済効果を求めるのはいささか無理がありますが、安全立国、おもてなしの心等我が国の良いところを世界に示すことが出来るようなオリンピック・パラリンピックにしたいものです。

オリンピックと言えば、我が岡崎高校はこのところ全国化学・生物学オリンピックで優秀な成績を上げています。その他文化部、運動部を問わず部活動が活発に行われ、ほとんど全ての学生がそれに参加し幅広い人格形成の道を目指しているとのことでもあります。

さて、我が岡崎高校は一八九六年(明治二十九年)に愛知県第二尋常中学校として創設され、以来明治、大正、昭和、平成の四代に亘り歴史を刻み続け、今年で創立百二十年の記念すべき年を迎えました。そして、岡崎高校同窓会は、母校

の教育実践の支援を目的に、学校およびPTAと一体となり様々な百二十周年記念事業の遂行を行って来ております。首都圏段戸会としても記念事業が計画通り遂行されるよう、出来るだけの協力をしたと考えています。

首都圏段戸会は、首都圏在住の同窓生の組織として一九七二年(昭和四十七年)に発足し四十四年が経過しました。第一回総会には出席者三十八人の小ぢんまりした会でありましたが、その後組織も徐々に拡大し最近では年一回の総会も二百三十〜二百四十名の方に参加いただいております。

本年の総会・懇親会は十月二十九日(土)を予定しております。会員の皆様におかれましては、是非出席いただき岡崎高校同窓生としての絆と心の繋がりを感じていただきたいと思います。

## 総会・懇親会にお早めにお越しください。

総会・懇親会の受付は、次の通り行われます。

(時間) 12:30~15:30

(場所) 最初は、「3階のエレベーター・ホール横」その後傾合いを見計らって、「総会・懇親会の会場入口」に移動

受付の仕事は、世話人が分担して行っているのですが、受付担当の人たちも、会員の皆さん同様に講演会や懇親会を楽しんでいます。このような事情をご賢察の上、できるだけ早い時間に(できれば13:30頃までに)受付をお済ませ頂けると助かります。会員の皆様のご理解・ご協力を宜しくお願いします。

「首都圏段戸会」は愛知県立岡崎高等学校の首都圏同窓会です。

公式ホームページ

<http://dandokai.o.oo7.jp/>

首都圏段戸会

検索

パソコンやスマートフォンが不得意な方も、お子さんやお孫さんに操作を頼んで、一度ホームページを訪ねて下さい。

## 段戸サークルのお問合せ先

皆さまの参加をお待ちしています!

### 「段戸囲碁会」

(代表幹事: 藤田 訓弘 高13回) kfujiita@muc.biglobe.ne.jp

### 「段戸音楽会」

(幹事: 石川 航己 高58回) koki.ishikawa.49@gmail.com

### 「段戸句会」

(幹事: 小森 蓀子 高13回) shigeko\_komori@ybb.ne.jp  
\*本号6ページに活動報告が掲載されています。

### 「段戸山の会」

(幹事: 満江 信之 高15回) nmitsue@ae.auone-net.jp

## 第44回首都圏段戸会総会・懇親会のご案内

●日 時 平成28年10月29日（土）13：00～16：40

●場 所 アルカディア市ヶ谷（私学会館）（右地図参照）  
千代田区九段下北4-2-25（TEL 03-3261-9921）  
JR市ヶ谷駅から徒歩2分  
地下鉄市ヶ谷駅（有楽町線、南北線、新宿線）  
から徒歩2分



●講演会 タイトル：自動運転技術で未来のクルマはどう変わるか？

講 師：杉浦 孝明（高41回）（株）三菱総合研究所 社会公共マネジメント研究本部  
ITSグループ グループリーダー

いま、テレビなどでも話題の自動運転。これからのクルマは、より安全に運転するための事故を未然に防ぐ技術や、ドライバーの負担を軽減するための新しい機能が装着されてきます。こうした自動車の先進機能の最新動向と将来予測、その先にある自動運転が実現された社会と課題について紹介します。

（略歴）

平成元年3月 愛知県立岡崎高等学校卒業

平成5年3月 慶應義塾大学理工学部卒業

平成7年3月 慶應義塾大学大学院理工学研究科修士課程修了

同年4月 株式会社三菱総合研究所入社

現在 同社社会公共マネジメント研究本部ITSグループ グループリーダー

●会 費 男 性 8,000円 女 性 6,000円

ただし、以下の会員には特別割引があります。

古稀を過ぎた会員（高16回以前）	5,000円
若手会員（高54回以降）	5,000円
学生会員（高54回以降の大学、大学院、専門学校等の学生）	1,000円

●ご招待 古稀年次（高17回）の方は、ご招待申し上げます。（会費無料）

●招聘恩師（予定：敬称略）

米津 勇美（数学）

鈴木 弓子（数学）

高井 俊直（生物）

三井 範康（英語）

人生お楽しみ中!

サボテンに魅せられて

高19回 宮崎 収兄

植物が好きで小さい時から花や木を植えて育てていました。サボテンに興味を持ったのは小学校高学年の時で、通信販売で小さな苗が届くのが楽しみでした。そのころ愛知県は日本一のサボテン産地だったので。自作のサボテン用フレームで栽培していましたが、進学で岡崎を離れ続けられなくなりました。

船橋に住むようになってからは、畑を借り桃や梨など果樹栽培が趣味でした。桃は10本ほどありましたが、うまくいけば素人でも1本で200個くらい収穫できます。ところが京成バラ園でサボテンを買ったら、あつという間に増えて、果樹をやめサボテン中心になりました。10坪ほどのビニールハウスで栽培しています。ハウスを二重にしたり、一部加温したり色々試しましたが、この辺りでは一重で無加温でも、冬の間水を切れば問題ないようです。しかし、2年前の大雪では50cm近く積もり、物置小屋の屋根が抜



け、ハウスがつぶれました。何本かダメになり落ち込んでしばらくハウスに入る気がしませんでした。建て直さず天井を柱で持ち上げてごまかしています。

サボテン趣味家にはいろいろなタイプがあります。(1)できるだけ多くの種類を集める人、(2)少数の種類を集中的に集める人、(3)タイプのよいものばかりを集める人などです。欧米では(1)が多く、日本では(3)が多いです。日本では良いタイプのもや変わり物を作る趣味などが昔から多いですが、サボテンも良いタイプの作出は日本のお家芸で名人と呼ばれる人たちがいます。私は最初は興味を持ったものをどんどん集めていきましたが、途中から種類を絞り今は南米チリ産のコピアポア属を中心に栽培しています。この属は黒王丸をはじめ成長が遅く、10年で10cmにもならない種類が多いです。早く大きくするために接ぎ木などもしましたが、今は種からじっくり育てることを楽しんでます。サボテン趣味家は60才以上が多いですが、若い人や女性にも楽しさを知ってほしいと思います。

同期の仲間

みんなどういまごろ...

高14回 磯尾 進

「いこまい会」は首都圏在住14回生の集まりです。五十路の坂を越え、段戸会

総会の出席者も増え始めた頃、年一回の集まりでは物足りないねという会話をきっかけに、横浜中華街、大相撲とちゃんこ鍋、隅田川屋形船、歌舞伎や落語鑑賞、小江戸川越や鎌倉散策など、知的・文化的欲求と胃袋欲求をともに満たす毎年の集まりが始まりました。しばらくは日帰りでしたが、秦野の弘法山・吾妻山を散策し鶴巻温泉で打上げをした時、「あー、このままゆっくり眠りたいね」という女性陣の切なる声に男達も納得、その後は一泊旅行になりました。

岩櫃のロッジに泊まり吾妻渓谷をハイキングし、やがて八ッ場ダムに沈む川原湯温泉に浸かりました。信玄隠し湯の下部温泉と身延山久遠寺では、乗り換え列車に幹事の姿なく大騒ぎになりました。小田原城から箱根を訪ね、文豪も泊まった塔ノ沢の老舗旅館の雰囲気も堪能しました。そして昨年は大山阿夫利神社。昔ながらの宿坊の一つに宿泊。翌日、二週間前に半世紀ぶりに新型車両となったケーブルカーで楽しんで登山のつもりが、なんと信号故障で連休。「え、信号要るの? 余計なものつけるからだ!」と文句たらたら、やむなく徒歩で。神社からのミシユラ二つ星の眺望は素晴らしく、72歳の脚力にも皆自信を持ちました。

この他にも、飲み会、麻雀、山歩き、ゴルフ等、同好の土が集い楽しんできました。年9回N響の定期演奏会を聴く楽響ク

ラブも13年目、1000回を超えました。当日都合つく人が1500円の自由席券を買って入場という気楽さが、長続きのもとかもしれません。

いこまい会には会長も会計もいません。行事には都度適任者が現れて幹事役を務め、メールアドレス提供者に参加の呼びかけを送っています。

下り坂では後ろ向きにと言われます。前向きにはもう十分生きてきました。今は、ある時期ある場所を共にした仲間が集い、昔を懐かしみ、本音を吐露し、失敗も笑いあって、人生の下り坂を楽しみたいと思います。「いこまい会」は、それぞれが持ついくつものそんな居場所の一つであり続けたいです。



身延山にて (筆者は最上段の中央の白い帽子)

なぜこの仕事を？—食品・サントリーの巻

高58回 松嶋 みゆき

わたしは今、株式会社J-オイルミルズで働いています。製油事業が主ですが、健康食品やがんの診断薬なども扱っている会社です。ご家庭で「AJINOMOTO オリーブオイル」や「AJINOMOTO」さらさらキャノーラ油」などを使用している方もいらっしゃるのではないのでしょうか。これらの商品を製造・販売している会社です。その中で、わたしはマーガリンの商品開発を担当しています。家庭用では、「Rana」というブランドです。

この仕事を選択した理由としては、もともと食に興味があり、大学では栄養学を勉強していたことから、食品メーカーを中心に就職活動を行っていました。最初は油に興味はなく、ただ何となくエントリーしただけでしたが、様々な企業の説明会に参加するうちに、多くの食品に使われる「油脂」に興味を持ちました。あとは、面接等で会う企業の方の雰囲気や良かったことと、最も就職活動がスムーズに進んだ企業であったということが本音です。

具体的な仕事の内容としては、新しい商品の案を考え試作し、実際に実機で製造できるか確認するような仕事が多いのですが、ただ商品を作るだけではなく市場調査も行っています。例えば、一般消費者の方と、マーガリンの形態にとらわれないことなく「パンと一緒に食べるこんな商品あったらいいな」という意見を出し合い、新し商品案を考える様なグループ

ワークを行ったり、上市する前の商品をご家庭で使用していただき、評価していただいたり、消費者が購入する際にパッケージのどこを見ているのか、目の動きを観察する調査など、様々な調査を行っています。マーガリンは市場も縮小しており、ただ新商品を出すだけでは売れない時代ですので、研究開発職ではありますが、マーケティングについて勉強する機会が増えてきています。

仕事のやりがいとしては、単純ですが自分が開発した商品および業務用では開発した商品を使用したパンやお菓子が店頭で販売されていること、また手にとって購入する人を見ると嬉しくなります。入社して配属先が発表されるまで、マーガリンなどの加工油脂を担当することになるとは思ってもいませんでしたが、加工油脂は油脂を加工する技術や組み合わせる油脂の種類、添加物も様々であり、検討出来る点が多い点は面白いと感じています。すでにある商品の形態にとらわれないことなく、「こんな商品あったらいいな」という想いを実際に商品化できるように、これからも頑張っていきたいと思っています。



筆者は左

高58回 延近 康平

私は2013年の入社以来、サントリーの健康食品分野であるサントリーウエルネスに勤めています。サントリーが健康食品？と思われる方も少なくないと思いますが、例えばドラッグストアやコンビニなどでサプリメントとして販売されているゴマの成分「セサミン」はサントリーが独自に研究開発を手掛け、最初に世に送り出したものです。

そもそも私が酒類飲料メーカーであるサントリーに入社を決めたのは、学生時代、仲間とお酒を飲みながら語り合う空間が好きで、そんな大好きなお酒を通じて多くの人たちの生活を豊かにしたい！と思ったからでした。しかし、実際に配属されたのはお酒でも飲料でもない、健康食品という分野。何の知識もない私にとって自分ができるのか、と不安でいっぱいでした。

そんな配属以来、現在は自社システムのアプリケーションを開発する部署に所属しています。私の会社では商品の注文（出荷）債権回収に関わる一連の業務を自社システムでまかなっており、その中でも私は電話注文時に用いられているシステムのアプリケーション開発を担当しています。

商品の販売方法を通販のみとしている私の会社では、お客様との直接的な接点が電話となっているため、電話注文時の対応の仕方は非常に重要なポイントです。どんなに良い商品を作り出しても電話応対一つでお客様が持つ会社へのイメージが変わってしまうからです。そこで私は電話を受けた誰もが瞬時にお客様の情報



筆者は前列一番左

を把握できるように、過去の電話から得られた膨大な情報（購入状況、過去の対話内容、お悩みなど）を見える化するアプリケーションを開発しています。単に情報を文字に変換するだけでなく、一つの画面から瞬時に必要な情報だけをピックアップされるようにしています。そうすることで、どのオペレーターが対応してもお客様情報の一元管理と共有が可能となり、それが結果的にお客様の信頼に繋がります。

お酒や飲料のような店頭販売をしている商品とは異なり、電話におけるお客様とのコミュニケーションはone to oneのやりとりになることから、信頼関係をいかに築けるかが大切だと感じています。相手が人である以上、お客様全員に満足いただくことは難しいことです。しかし、自分が造り上げるシステムがオペレーター業務の向上となり、それが最終的にはお客様のサントリーウエルネスに対するイメージに繋がることにとってもやりがいを感じています。これからの一人でも多くのお客様から信頼獲得につながるためのシステムを作り続けていきたいと思っています。

私のいたころの岡中・岡高

高2回 青山 敦夫



昭和十九年の夏過ぎのこと、デッサンというニックネームの美術の山本先生、寄宿舎

「昭和学舎」の舎監もつとめておられたが、授業の最初に沈痛な表情で口を開かれた。

「昨日、君たちの先輩U君の戦死の公報が入ったそうだ。北設楽の山奥育ちで、下校するとすぐ、岡崎駅に飛んで行って蒸気機関車を見るのが日課だった。そのU君が馴染みの薄い海で亡くなるとは。」  
とくにミッドウェー海戦で日本の連合艦隊は全滅していたが国民には知らされないままだったし、一年生の軍国少年たちに先生の真意は伝わらなかった。

勤労働員・大地震・空襲

そこへもたらされたのが、中学生の軍需工場への「勤労働員」だ。五年生と四年生は美合、三年生は今村、二年生は幸田の軍需工場で武器製造に携わるようになった。追いかけるように私たち一年生も四、五年生と同じ美合の日清紡に行くことになった。紡績工場が軍用機製造工場になっていて、配属されたのはキー67「飛龍」の組み立て現場であった。毎朝、

美合駅で下車すると「万葉の桜か襟の色、花は吉野に嵐吹く。」軍歌を大声で歌いながら工場まで行進した。

生徒のいなくなった学校はさっそく本土防衛の陸軍部隊の駐屯所になってしまった。たまたま、私は運動場に馬が繋がれ、廊下が軍靴に踏みつけられ節くれだった変わり果てた学校を眼にすることが出来た。病欠していた十二月七日に大地震があり、学校へ駆けつけたからである。年が明けた二十年の一月にも地震があったが、このころから米軍艦載機による機銃掃射、豊川海軍工廠への爆撃と戦火が身近に迫って来た。そんな中で、ついに、岡崎が空襲でやられる日が来た。七月二十日の未明であった。二百機近いB29が一万数千発もの焼夷弾を投下したのだから、ひとたまりもない。幸い、学校は全焼を免れたと聞いたが工場行きが優先で見に行くことはできなかった。敗戦が八月十五日だから、わずか二十六日前の出来事であった。

その八月十五日正午、工場広場に集められて天皇の玉音放送を聞かされたが雑音がひどく内容が理解出来なかった。組み立て中の翼を囲んで、女学生と一団になって「海ゆかば」を歌って動員解除になったのは三日後であった。

戦争後の混乱

九月、学校生活が再開された。といっても軍隊が荒らして行った校舎の清掃や修復に何日もかかった。臨時に五年生の上に復員して来た上級生のための特別クラスが編成されたが軍隊帰りの荒々しさが怖かった。英語の達者な校長先生を米

軍のジープが迎えに来たりする中で、バレー部や野球部から練習が復活したが、入学直後、柔道や剣道を学んだ武道場が焼け落ちて壁だけになって、バレーのコートになった。

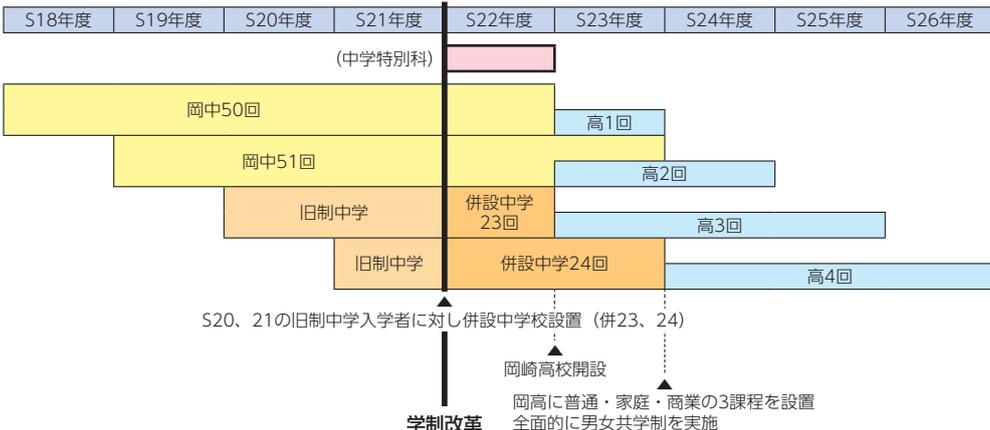
話は飛ぶ。昭和二十一年、二十二年が駆け足で過ぎて行った。生徒たちの制帽・制服がようやく整い出した昭和二十三年（1948）、六・三・三・四の新学制になり、岡崎中学が岡崎高校になった。中学四年生だった私たちは高校二年生になり、男女共学の併設中学が設けられて校内でセーラー服が見られるようになった。高校が男女共学になったのはその翌年二十四年だが、その年に、もっと大きな出来事に見舞われた。全県に通学区域制度が実施されたのだ。市内在住者は菅生川を境に県高と市高に二分され、



昭和21年4月 岡中51回 3年2組のクラス写真

高校のある近郊都市からの通学生は地元の高校に転入することになった。まさに同級生同士の泣き別れであった。野球部が初の甲子園行きを決めたのもこの年であった。私たち二回生の卒業は翌昭和二十五年である。何年か前、首都圏段戸会の帰りに「戦争だけは二度とごめんかね」といいあったが、そのとき一緒だった仲間うちの何人かは、もう、旅立ってしまった。

【参考】学制改革頃の変遷（岡高同窓会名簿から一部抜粋）



段戸句会活動報告

段戸句会は関東のみならず全国の岡崎中学、高校の同窓生の俳句会です。

奇数月に兼題又は自由句を五句投句して、平田冬か氏(十四回生)の選評、添削を頂いています。氏はNHK俳句の選者のお一人で、俳句結社「かつらぎ」の副主宰であり、お忙しい中を「卒業生として俳句の楽しみを一人でも多くの人に味わって頂ければ」と、ご指導下さっています。

通信句会では現職の人、お忙しくて句会に出席出来ない方でも参加できます。暮らしの中の小さな発見は毎日を楽しめます。

三月の兼題は春泥、木の芽、日永でした。

- 通るたび木の芽ふくらみ増してをり 彩
ぼやの毬抱へる木も芽を吹ける 圭子
隣合ふ山菜更ミモザ黄を翼に 洋馬
春泥の靴はばからず鄙の駅 親信
春泥の靴駅頭に履き替ふる 武
大空へ背伸びするかの木の芽かな 毅
啓蟄や歩幅大きくウオーキング 勉
職離れ猫を相手の日永かな 寛
時計屋の時刻ばらばら長閑なり 美智子
羽根開く孔雀を待てる日永かな 望月
白木蓮の咲き漲れる今朝の空 康充
春泥にタイヤの模様造成地 康夫
頬白のこの鳴き声は恋ならむ 悠天
けんけんの黄色のブーツ春の泥 六花
木の芽どき木々の吹き聞こえさう 榛子

しかし何と言っても俳句の醍醐味はお仲間と吟行、句会をすることです。同じものを見ても人それぞれに違った感想を

高13回 小森 榛子

持ち、異なった句となります。ネット上だけでなく毎年先生のご上京の折に吟行句会を開いています。先生との吟行は新しい発見があり、ご指導により佳句が生まれたりします。今年二月は羽根木公園への吟行でした。

- 白加賀の名を負ふ気品梅真白 冬か
同じ名にして遅速あり園の梅 〃
汀女句碑添ひなす梅の匂ひけり 〃
汀女の句刻む大岩梅ふぶむ 悠天
一山を見下ろす茶屋床几 親信
句会場に脱ぐ靴どれも春の泥 寛
布巻きて養生中も梅見事 圭子
梅見酒手に老一人物静か 美智子
梅見事されど不明と言ふ名札 榛子

昨年より会員からの提案により会員相互の選を始めました。コメントを付した選は楽しい交流の場となりました。又、新しい企画として年間大賞一句、準大賞二句が選ばれることになりました。

平成二十七年年度年間大賞
母の日にもてなす男料理かな 正敏

準大賞
おはようと日々指弾く金魚鉢 寛
おでん煮て妻は三日の留守を告ぐ 榛子

段戸句会の詳細と毎回の入選句、講評は首都圏段戸会のホームページを参照下さい。

これから俳句を始めようとしている方、既に他の結社に入っている方々のご参加を期待しています。

段戸フォーラム報告(第22回)

皆さんは、信号機、というとどんなことを経験していますか? 「早く青にならないかな」「もう点滅するの?」「あつちの車線の方が青が長くないか」「右折車が多くて渋滞しちゃっているよ」と、自動車運転していたり、道を歩いている、思うことがたくさんあると思います。

こうした交通信号機について、織田利彦さん(高26回)から、2016年3月14日、「信号のいま・むかしーウラ話を明かします」との題で、交通信号機にまつわる色々なお話をうかがいました。まずは信号機の歴史から...:ずいぶん色々なものがありました。

そして、いまどきの信号機は、ただ青・黄色・赤と順番に色を変えているだけではなく、そこには、ハイテク、ローテク、色々なものが組み込まれていました(無論、何も組み込まれていない信号機もあるそうです)。例えば、超音波、光などのセンサーや画像を使って交通量を把握し、信号機の変更のタイミング(サイクル)を変更しているそうです。

例えば、時間帯や曜日によって典型的に信号機のサイクルを変更したり、混雑状況に応じてサイクルを変更したり、渋滞が緩和されるような体制になっているそうです。信号機を見るだけでは、まったくわかりませんでした...:地域制御、系統制御、地点制御といういろいろあるそうです。こうした新しい制御システムについて、入れ替えができない古いシステムが混じっているとかが。

こうした信号機の制御の他に、カーナビゲーションシステムや織田さんご自身の研究や今の職場に移るきっかけなど、色々なことをうかがうことができました。

段戸フォーラムでは、こうした自分では経験したり知ることができない分野について、専門家からお話を聞くことができます。講師も運営も同じ岡高卒業生です。どうぞお気軽にご相談下さい。

(中西)



講師 織田 利彦さん (高26回)



## 運営協力金のお願い

平素から首都圏段戸会の活動にご理解、ご協力頂きまして、誠にありがとうございます。

首都圏段戸会は、回を重ね本年第44回総会を迎えることになりました。前回総会では、中47回から高65回の皆さん約220名にご参加頂きました。これもひとえに会員の皆様の温かいご支援の賜物と、心より感謝しております。

本会の特徴は、岡崎高校の長い歴史を活かし、首都圏在住の大学生、現役社会人、更に定年退職者と幅広い年次の会員が集まり、総会に加え、各種イベントの開催やサークル活動を行っていることです。

例えば、現役岡高生との交流を目指したイベント「オープンキャンパス」では、学生会員の大学生が主体となって、大学、研究室の見学、先輩の大学生・教員との懇談などを行っています。岡高生には、単なる受験対象として捉えていた大学で、「何をしたいか？」について考える機会を得られたと好評です。

また、学界、官界、産業界、法曹界、政界など各分野で活躍されている会員を講師に招いた「段戸フォーラム」、更に音楽、俳句、山登り、囲碁の同好の集まり「段戸サークル」があります。いずれも幅広い会員の交流の場となっています。

また、こうした活動は、年2回（春・秋）発行する「会報」、最新ニュースは「ホームページ」を通して、皆さんへお伝えしています。

このような諸活動は、各年次から選ばれた80名ほどの「世話人のボランティア」と、会員の皆様からの「運営協力金」のご支援とによって支えられています。

これからも、人間的な手作りの感触を大切に、同窓の皆さんが安心して集まれるよう、会の運営に努めてゆく所存であります。つきましては、首都圏段戸会の諸活動を益々充実したものとするため、これまで以上に幅広く、多くの会員の皆様から運営協力金のご支援を賜りたいと思います。よろしくお願いいたします。

〔運営協力金の主な使途〕

会報の印刷・郵送費用、世話人会費用、ホームページ運営費用、オープンキャンパス費用 等

### 平成28年 首都圏段戸会 世話人名簿

(高2回) 服部 登	福山 透 情報	(高44回) 松尾 直樹 企画
(高3回) 丹羽 鼎	村木 央明 副会長・広報	(高45回) 筒井 貴之 情報
(高6回) 有馬 弘政	(高20回) 天野隆太郎 企画	西浦 瑞恵
(高7回) 是津 定利	辻村 貴典 会計監査	(高46回) 朝岡 大輔
(高8回) 杉浦 嘉久	(高21回) 小栗 恵子	大川 博 広報
田中 厚生 広報	山田 俊文	小椋 俊博
(高9回) 岡田 敏夫	(高22回) 上田 洋子 副会長・書記	(高47回) 杉本いづみ 会員
(高10回) 山川 肇爾	(高23回) 野々山 浩 会計	(高48回) 藤井 晋也
(高11回) 永田 宏	(高25回) 戸田 譲三 会計監査	(高50回) 鳥居 福代 情報
太田 栄之	(高26回) 織田 利彦 事務局長・企画	(高52回) 清水 雄太 情報
(高12回) 鶴田 文男	(高27回) 長田 光雄 会計	近藤 佳子 広報
成瀬 徹	岸 洋平 会計	(高53回) 石井 貴大
(高13回) 中 浩之	山崎 正枝	辻内 直子
(高14回) 磯尾 進	(高28回) 酒井 邦彦	(高54回) 安藤 康伸
水谷 鏡子	(高30回) 米津 智徳	岡田 尚博
(高15回) 神谷 国広	(高31回) 高原 正之 企画	加藤 直也 広報
満江 信之	(高34回) 板谷 敏正 副事務局長・企画・情報	(高57回) 川口 敦子
(高16回) 鈴木 弘恵	井上由美子 副事務局長・企画	(高58回) 石川 航己 企画
野村 親信 会長	(高35回) 菅 伸介 会員	鳥山 順丘
横井 昭親	糸井真由美	(高60回) 篠原 国智
(高17回) 伊與田 正彦	小川 美季	杉浦 綾香 書記
山田 博子	(高36回) 平松 理生	本多健太郎
(高18回) 伊藤 博邦	(高38回) 中西 和幸 企画	吉村 圭吾
音部 昌宏	(高40回) 大田 武 会計	(高61回) 辻 翔太
清水 久雄	(高41回) 中鉢 朋子	(高62回) 栗津 文香
山内 恵	(高42回) 長野 麻子 広報	(高63回) 吉兼 峻史
(高19回) 都築 正行 会計	(高43回) 八田 益之	(高64回) 藤岡 進也
		細井 美裕
		(高65回) 村松 旺

平成27年度 運営協力金協力者芳名

(賛助法人)	スターツコーポレーション株式会社 田辺総合法律事務所 税理士法人みらいパートナーズ 岡崎信用金庫	(高13回)	西星新犬柴杉鈴鈴堤長新平本阿石磯岩織金齊都中水雨佐鶴本山大門志鈴鈴牧横渡伊小酒竹中武伊音清竹石木近竹時福天遠神坂辻原矢吉足天大齐清戸兵山上木齐	也昭之子秋洋二也之直忠弘哉彰進二弓紘義修子子 欣捷勝葆千 昭雅浩 訓宏 郊真 輝 紀雅 部辺川森道原木淵 山田田木野尾奈館原田瀬井本 服渡石小神杉鈴田中原藤眞天磯伊大笠糸笹長橋 加杉長満 韶一夫朗徳仁一允正紀治吾之二道江一司幸明子子子夫治枝健男子明子子恵美親利彦造代子子邦宏雄人恵美司一道芳子透郎昇恵子典広清誠一茂茂江雄人治文子平保	(高23回)	新長清水本明竹戸大畔山天大河杉山山三長海石小森伊杉野堀阿野山板神柘板小佐鈴古塩平安小杉桃木大太重西秋上吉松松牧大小早青藤石井近三岡加川高小嶋本	雄一浩 生明 彦夫 三雄也也生 彦人 子介徳淳之 子敦り 美一子美傑介英人之 均幸 彦昭史子 勝介み 弘 亮勇太仁悟 友知千 紀美尋
(岡高同窓会会長)	古澤武雄	(高25回)	史陽康志重忠功康幸正昭源正完輝澄秀博忠 英綾鏡譽公瑞 智津弘里昭雅正乙照榮房隆博昌久義 直武陽広和恵 純 美照正幸俊洋 光	庄谷水田保本田久保柳口野久原保仁と正 奈芳光寿定 さ田義章美紀二子明正輔明吾季子美宏聖生幸努剛司一武里彦子之奏孝里光浩博宏平也高太子司博也子順史平郎	之雄夫広男之三子誠子康恵志み枝淳紀司美雄健み信一紀二子明正輔明吾季子美宏聖生幸努剛司一武里彦子之奏孝里光浩博宏平也高太子司博也子順史平郎	鈴渡野 岡田 織杉 池長荘宮山 酒長 木松米小高 村上津林原 松村かお 井上宏玲真 伸俊寛貴 野西和 田嶋部鉢 比護結子 里元麻衣子 吉小杉本いづみ 羽佐田泰弘 酒今清横加 小福山 室田本	
(岡高同窓会幹事)	藤原波一郎	(高26回)	村野井塚田浦木木 坂実野多部河村垂田澤藤築島谷宮野田多田口野知木木野井邊与林井嶋野藤藤部水内内樽下藤内田千隆 由俊貴勝 純 美照正幸俊洋 光	弘章郁隆治仁讓律 知俊玉仁と正 奈芳光寿定 さ田義章美紀二子明正輔明吾季子美宏聖生幸努剛司一武里彦子之奏孝里光浩博宏平也高太子司博也子順史平郎	木辺々 田村 田浦 田保川 柳野保仁と正 奈芳光寿定 さ田義章美紀二子明正輔明吾季子美宏聖生幸努剛司一武里彦子之奏孝里光浩博宏平也高太子司博也子順史平郎		
(中43回)	鶴野庄一郎	(高27回)	服渡石小神杉鈴田中原藤眞天磯伊大笠糸笹長橋 加杉長満	新長清水本明竹戸大畔山天大河杉山山三長海石小森伊杉野堀阿野山板神柘板小佐鈴古塩平安小杉桃木大太重西秋上吉松松牧大小早青藤石井近三岡加川高小嶋本	龍嘉山 弥英 利明 田保川 田 井坂 美徳子 津林原 松村かお 井上宏玲真 伸俊寛貴 野西和 田嶋部鉢 比護結子 里元麻衣子 吉小杉本いづみ 羽佐田泰弘 酒今清横加 小福山 室田本		
(中47回)	神谷城松村太松宮青今佐杉名城三井阿加木後左丹松米柴本安志市近是羽三村安杉田三石片金香小高坂若安宇木杉野藤本山山阿上幸中藤水山安大近鈴田鶴内	(高14回)	服渡石小神杉鈴田中原藤眞天磯伊大笠糸笹長橋 加杉長満	新長清水本明竹戸大畔山天大河杉山山三長海石小森伊杉野堀阿野山板神柘板小佐鈴古塩平安小杉桃木大太重西秋上吉松松牧大小早青藤石井近三岡加川高小嶋本	雄一浩 生明 彦夫 三雄也也生 彦人 子介徳淳之 子敦り 美一子美傑介英人之 均幸 彦昭史子 勝介み 弘 亮勇太仁悟 友知千 紀美尋		
(中49回)	藤原波一郎	(高15回)	服渡石小神杉鈴田中原藤眞天磯伊大笠糸笹長橋 加杉長満	新長清水本明竹戸大畔山天大河杉山山三長海石小森伊杉野堀阿野山板神柘板小佐鈴古塩平安小杉桃木大太重西秋上吉松松牧大小早青藤石井近三岡加川高小嶋本	龍嘉山 弥英 利明 田保川 田 井坂 美徳子 津林原 松村かお 井上宏玲真 伸俊寛貴 野西和 田嶋部鉢 比護結子 里元麻衣子 吉小杉本いづみ 羽佐田泰弘 酒今清横加 小福山 室田本		
(高1・中50回)	太松宮青今佐杉名城三井阿加木後左丹松米柴本安志市近是羽三村安杉田三石片金香小高坂若安宇木杉野藤本山山阿上幸中藤水山安大近鈴田鶴内	(高16回)	服渡石小神杉鈴田中原藤眞天磯伊大笠糸笹長橋 加杉長満	新長清水本明竹戸大畔山天大河杉山山三長海石小森伊杉野堀阿野山板神柘板小佐鈴古塩平安小杉桃木大太重西秋上吉松松牧大小早青藤石井近三岡加川高小嶋本	雄一浩 生明 彦夫 三雄也也生 彦人 子介徳淳之 子敦り 美一子美傑介英人之 均幸 彦昭史子 勝介み 弘 亮勇太仁悟 友知千 紀美尋		
(高2・中51回)	青今佐杉名城三井阿加木後左丹松米柴本安志市近是羽三村安杉田三石片金香小高坂若安宇木杉野藤本山山阿上幸中藤水山安大近鈴田鶴内	(高17回)	服渡石小神杉鈴田中原藤眞天磯伊大笠糸笹長橋 加杉長満	新長清水本明竹戸大畔山天大河杉山山三長海石小森伊杉野堀阿野山板神柘板小佐鈴古塩平安小杉桃木大太重西秋上吉松松牧大小早青藤石井近三岡加川高小嶋本	雄一浩 生明 彦夫 三雄也也生 彦人 子介徳淳之 子敦り 美一子美傑介英人之 均幸 彦昭史子 勝介み 弘 亮勇太仁悟 友知千 紀美尋		
(高3・併23回)	佐杉名城三井阿加木後左丹松米柴本安志市近是羽三村安杉田三石片金香小高坂若安宇木杉野藤本山山阿上幸中藤水山安大近鈴田鶴内	(高18回)	服渡石小神杉鈴田中原藤眞天磯伊大笠糸笹長橋 加杉長満	新長清水本明竹戸大畔山天大河杉山山三長海石小森伊杉野堀阿野山板神柘板小佐鈴古塩平安小杉桃木大太重西秋上吉松松牧大小早青藤石井近三岡加川高小嶋本	雄一浩 生明 彦夫 三雄也也生 彦人 子介徳淳之 子敦り 美一子美傑介英人之 均幸 彦昭史子 勝介み 弘 亮勇太仁悟 友知千 紀美尋		
(高4・併24回)	柴本安志市近是羽三村安杉田三石片金香小高坂若安宇木杉野藤本山山阿上幸中藤水山安大近鈴田鶴内	(高19回)	服渡石小神杉鈴田中原藤眞天磯伊大笠糸笹長橋 加杉長満	新長清水本明竹戸大畔山天大河杉山山三長海石小森伊杉野堀阿野山板神柘板小佐鈴古塩平安小杉桃木大太重西秋上吉松松牧大小早青藤石井近三岡加川高小嶋本	雄一浩 生明 彦夫 三雄也也生 彦人 子介徳淳之 子敦り 美一子美傑介英人之 均幸 彦昭史子 勝介み 弘 亮勇太仁悟 友知千 紀美尋		
(高5回)	藤原波一郎	(高20回)	服渡石小神杉鈴田中原藤眞天磯伊大笠糸笹長橋 加杉長満	新長清水本明竹戸大畔山天大河杉山山三長海石小森伊杉野堀阿野山板神柘板小佐鈴古塩平安小杉桃木大太重西秋上吉松松牧大小早青藤石井近三岡加川高小嶋本	雄一浩 生明 彦夫 三雄也也生 彦人 子介徳淳之 子敦り 美一子美傑介英人之 均幸 彦昭史子 勝介み 弘 亮勇太仁悟 友知千 紀美尋		
(高6回)	市近是羽三村安杉田三石片金香小高坂若安宇木杉野藤本山山阿上幸中藤水山安大近鈴田鶴内	(高21回)	服渡石小神杉鈴田中原藤眞天磯伊大笠糸笹長橋 加杉長満	新長清水本明竹戸大畔山天大河杉山山三長海石小森伊杉野堀阿野山板神柘板小佐鈴古塩平安小杉桃木大太重西秋上吉松松牧大小早青藤石井近三岡加川高小嶋本	雄一浩 生明 彦夫 三雄也也生 彦人 子介徳淳之 子敦り 美一子美傑介英人之 均幸 彦昭史子 勝介み 弘 亮勇太仁悟 友知千 紀美尋		
(高7回)	市近是羽三村安杉田三石片金香小高坂若安宇木杉野藤本山山阿上幸中藤水山安大近鈴田鶴内	(高22回)	服渡石小神杉鈴田中原藤眞天磯伊大笠糸笹長橋 加杉長満	新長清水本明竹戸大畔山天大河杉山山三長海石小森伊杉野堀阿野山板神柘板小佐鈴古塩平安小杉桃木大太重西秋上吉松松牧大小早青藤石井近三岡加川高小嶋本	雄一浩 生明 彦夫 三雄也也生 彦人 子介徳淳之 子敦り 美一子美傑介英人之 均幸 彦昭史子 勝介み 弘 亮勇太仁悟 友知千 紀美尋		
(高8回)	市近是羽三村安杉田三石片金香小高坂若安宇木杉野藤本山山阿上幸中藤水山安大近鈴田鶴内	(高23回)	服渡石小神杉鈴田中原藤眞天磯伊大笠糸笹長橋 加杉長満	新長清水本明竹戸大畔山天大河杉山山三長海石小森伊杉野堀阿野山板神柘板小佐鈴古塩平安小杉桃木大太重西秋上吉松松牧大小早青藤石井近三岡加川高小嶋本	雄一浩 生明 彦夫 三雄也也生 彦人 子介徳淳之 子敦り 美一子美傑介英人之 均幸 彦昭史子 勝介み 弘 亮勇太仁悟 友知千 紀美尋		
(高9回)	市近是羽三村安杉田三石片金香小高坂若安宇木杉野藤本山山阿上幸中藤水山安大近鈴田鶴内	(高24回)	服渡石小神杉鈴田中原藤眞天磯伊大笠糸笹長橋 加杉長満	新長清水本明竹戸大畔山天大河杉山山三長海石小森伊杉野堀阿野山板神柘板小佐鈴古塩平安小杉桃木大太重西秋上吉松松牧大小早青藤石井近三岡加川高小嶋本	雄一浩 生明 彦夫 三雄也也生 彦人 子介徳淳之 子敦り 美一子美傑介英人之 均幸 彦昭史子 勝介み 弘 亮勇太仁悟 友知千 紀美尋		
(高10回)	市近是羽三村安杉田三石片金香小高坂若安宇木杉野藤本山山阿上幸中藤水山安大近鈴田鶴内	(高25回)	服渡石小神杉鈴田中原藤眞天磯伊大笠糸笹長橋 加杉長満	新長清水本明竹戸大畔山天大河杉山山三長海石小森伊杉野堀阿野山板神柘板小佐鈴古塩平安小杉桃木大太重西秋上吉松松牧大小早青藤石井近三岡加川高小嶋本	雄一浩 生明 彦夫 三雄也也生 彦人 子介徳淳之 子敦り 美一子美傑介英人之 均幸 彦昭史子 勝介み 弘 亮勇太仁悟 友知千 紀美尋		
(高11回)	市近是羽三村安杉田三石片金香小高坂若安宇木杉野藤本山山阿上幸中藤水山安大近鈴田鶴内	(高26回)	服渡石小神杉鈴田中原藤眞天磯伊大笠糸笹長橋 加杉長満	新長清水本明竹戸大畔山天大河杉山山三長海石小森伊杉野堀阿野山板神柘板小佐鈴古塩平安小杉桃木大太重西秋上吉松松牧大小早青藤石井近三岡加川高小嶋本	雄一浩 生明 彦夫 三雄也也生 彦人 子介徳淳之 子敦り 美一子美傑介英人之 均幸 彦昭史子 勝介み 弘 亮勇太仁悟 友知千 紀美尋		
(高12回)	市近是羽三村安杉田三石片金香小高坂若安宇木杉野藤本山山阿上幸中藤水山安大近鈴田鶴内	(高27回)	服渡石小神杉鈴田中原藤眞天磯伊大笠糸笹長橋 加杉長満	新長清水本明竹戸大畔山天大河杉山山三長海石小森伊杉野堀阿野山板神柘板小佐鈴古塩平安小杉桃木大太重西秋上吉松松牧大小早青藤石井近三岡加川高小嶋本	雄一浩 生明 彦夫 三雄也也生 彦人 子介徳淳之 子敦り 美一子美傑介英人之 均幸 彦昭史子 勝介み 弘 亮勇太仁悟 友知千 紀美尋		

氏名不詳3名